2003 秋号 vol.2
幸山政史通信

HOT・ホッと・くまもと

初心を忘れず市政改革

HOT・ホッと・くまもとをお読みいただいている皆さん、いつもありがとうございます。

前回の創刊号に対しましては、多くの皆さんからお読みいただいた感想が事務所に届いています。県議会議員時代には議会ごとに年4回広報紙を発行していましただけに「今後も続けてほしい」といった声が多く、大変うれしく感じています。また「インターネットは扱いきらんのだから是非……」といった声にもお応えするために、今後も紙面を工夫しながら、読みやすさ、分かりやすさに心がけ、今後も定期的に発行していきたいと考えています。

さて、私の方は9月議会も終わりひと段落といったところですが、これから市政改革の中間報告・来年度の予算編成等に向けて、休むことなく更に気を引き締めて臨まなければなりません。早いもので就任して10ケ月、もうすぐ1年が経過することになります。最近「市役所が少しずつ変わってきた」といった感想や「以前と一緒。もっと頑張れ」といった激励の言葉をいただくことがあります。これまでの取り組みを振り返り、今後につなげていかなければなりません。これまでの経験からの率直な感想は、決して弱音を吐くわけではありませんが・予想以上に孤独・ということです。当然ですが、いろんな人に相談したとしても最終的には自ら判断しなければなりません。また他人に相談できないようなことも多々あります。今後数々の判断を誤ることがないよう、知識・経験・人脈等いろんなものをもっと身につける必要があると感じています。

打合わせ中、予定よりも長びくこともしばしば

最近1年前のビデオを観ました。それは10月25日に県立劇場で行った総決起大会のビデオです。久しぶりで最初は少し恥ずかしかったのですが、その中で私が「今でなければ駄目なんです。今変えなければ……」と繰り返し叫んでいました。自分で観てもその時の必死さが伝わってきました。それを皆さんに感じていただいたからこそ、短期間の中であれだけ多くの方々から応援していただけたのでしょう。

今市政改革に取り組み始めたところですが、それをやり遂げていくためには、もう一度あの時の必死さが必要だと感じています。何かを変えるということは簡単なことではないということを改めてあらゆる場面で実感しています。例えば、市政改革の前提として職員の意識改革を求めており、職員研修やブレックファストミーティング等で直接対話に心がけていますが、6千名を超える職員に意思を伝え理解してもらうことは容易なことではありません。また、行財政改革に関しては、よく言われるように・総論賛成、各論反対・です。今後計画を実行に移していくためには、より丁寧な説明が必要になってきます。ただそうすることが市民のためになるものと信じるからこそ、必死で説明し理解を求めていかなければなりません。決してこれまで手を抜いていたわけではありませんが、改めて1年前の気持ちを思い出し、市民のための市政改革、信頼される市政の実現に取り組んでまいります。

今後も私の活動に対して、市政に対して注目していただき、ご意見やご感想をいただければ幸いです。とにかく頑張りますので今後ともよろしくお願いします。

机の上は山積みの書類が…（市長室）

熊本市長　幸山政史

第2回　「幸山政史事務所」からのお知らせ

“みなさまの声を形に”のこころで（中村）

「ただの市民のグループですが、私達のグループの会で講演をやっていただけないでしょうか?」

と、そんな電話を事務所で受付しました。

事務所では会の趣旨、目的等をお尋ねして、市長とも検討し時間の調整をおこなって平日の公務終了後の時間から実現できました、それが以下の市長講演です。

私たち「幸山政史事務所」では、市長として公務を務める傍ら、政治家幸山政史が皆様の身近な存在であり続けたいと、ご要望にお答えできるものには限られた時間の中で、様々な形でその声の実現に取り組んでいます。今回はこれまでに実現できた具体的な活動の実績をいくつかご報告いたします。

1 グループ　講演日：8月6日
「わくわくフォーラム」様主催の月例会

会員の方を対象とした講演会であり、題目は“何事にも一所懸命が私のモットー”

約1時間30分で、70名様くらいの方にご来場いただきました。

（後日この時のテープを頂き、講演の内容が日頃の本人の話題と違って、大変おもしろいと好評なので、ご希望があればお貸し出しもいたします）

2 グループ　講演日：8月3日
幸山政史を応援する女性中心の支持者の会「幸（さち）の会」

「第1回幸の会茶話会」が開催され、市長を囲んで和やかな雰囲気の中で2時間、約150名のご参加をいただきました。

3 グループ　講演日：8月17日
「コスモ愛和音」様主催の講演会と討論会

約1時間30分の時間内で女性グループ20名との交流がありました。

関係者、当日会場のボランテイアの方、ご参加の皆様にはこの場を借りまして事務所より心よりお礼を申し上げます。

また本人による講演等の講演料、謝礼の類、そして事務所におきましても、お中元、お歳暮、贈答品の類、年末のカレンダー等全て辞退しております。

私たちの事務所の運営は「幸山政史の会」に入会していただいた会員からの会費のみでの活動を基本としております。皆様には会へのご参加が計画的な活動を支える力となりますことへのご理解をいただき、是非ご協力いただきますようお願い申し上げます。ご要望または「幸山政史の会」へのご質問等ありましたら、一度事務所までお問い合わせください。

但し公務を優先する関係で、講演の依頼などに対して全てお答えすることはできませんので予めご了承ください。

皆さんへのお願い

(1) 今回の新聞郵送の宛名、住所が違っている方
(2) 皆さんのお近くで応援して頂いている方でまだ私の新聞が届いてない方
(3) お知り合いで、これから新聞を読んでみたいという方

上の項目に該当する方がいらっしゃいましたら、お手数ですが下記の連絡先までご連絡下さい。宜しくお願い致します。

幸山政史事務所
〒861-5535 熊本市貴町378-1
電話／096-245-3525　FAX／096-245-4909
http://www.kohyama-office.com/

HOT活動報告

■ハイデルベルク市の訪問

友好都市であるドイツのハイデルベルク市を訪問してきました。ハイデルベルク市とは1992年に友好都市締結を果たしており、これまで医療・青少年・スポーツ・農業等様々な分野で交流を深めています。ハイデルベルク市ではあらゆる分野に住民参加・市民との協働が徹底されていました。先進的な取り組みを視察し刺激を受け、ハイデルベルク市の皆さんに「市民に近い行政の現状と未来」という講題で市民参加についてのこれまでの取り組みと今後の方針を1時間程度お話しました。またヴェーバー市長と今後の都市交流についての協議をし、形式的でない実のある交流、より民間レベルに近い交流について率直な意見交換ができました。短期間でしたが中身の濃い充実した訪問でした。

■30人学級を視察

少人数学級のモデル校を視察、授業の様子や担任の先生との懇談などを行いました。学年や教科によって効果は多少異なるようですが、概ね良い効果が出ているとの話しを聞いています。アンケート調査の結果でもおよそ8割が導入に期待しているようです。今後は検討委員会で効果について検証していきますが、私自身、今後もたまには学校現場を覗いてみることにしたいと思っています。子ども達の元気な姿に触れると私自身も本当に元気が出ます。

■高校生との懇親

県立熊本高校の生徒の企画による「幸山市長と政治を語る会」に出席しました。これまで障害者や国際協力等に取り組んできた同校の生徒でつくられているボランティアグループが主催で、色んな活動を続ける中で、社会をより良くするためには政治が重要と考えたとのことです。政治不信・特に若者の政治離れが進んでいると言われる中で高校生のこのような活動は心強い限りです。今の若者は決して政治に無関心ではなく、現在の政治に対する不信がある一方で、参加できる手段を探しているのだということを実感しました。

■協働のまちづくりをすすめる市民会議

「協働のまちづくりをすすめる市民会議」を始めました。この会議の100名を超える委員は全てが公募によるもので、自治体の憲法と位置づけることもできる自治基本条例（仮称）の素案作りに取り組んでいきます。これまでの審議会や委員会は、役所の原案にお墨付きを与えるような形式的なものが多かったように思います。その方が役所としては手続きが簡単であったのかもしれないですが、結果として市民の思いとは乖離したものが出来上がってしまっていたような気がします。今後市民参加の裾野が広がっていくことで、市民参加を定着していくことを期待しています。

■おでかけトーク

残りの時間は質疑の時間に充てています。実際行ってみて本当に皆さんが市政に関して高い関心を持っていただいていることを実感します。こうした活動を通して信頼される市政の実現に少しでも近づけたいと思います。

現在、私自身が熊本市の各ブロックに定期的に出かけて行き、市民の皆さんとお話しをする「幸山がトーク」を企画しております。市民との直接対話は私の公約の一つでもあり、多くの方々との交流の必要性を感じていました。当日は私の方から、市政改革、市政運営の基本方針、合併・政令市・新幹線等々について話しをし、

■末續選手にスポーツ特別功労者表彰

フランス・パリで行われた「第9回世界陸上選手権男子200メートル」で日本人初の銅メダルを獲得した末續慎吾選手に、熊本市スポーツ特別功労者表彰を授与しました。今後の活躍をぜひとも期待したいと思います。

直撃インタビュー

今回は幸山市長が取り組んでいる、三位一体での見直しについて考えを聞きました。

〈記者〉まず市長が今取り組んでおられる、三位一体の見直しとはどういうものですか。

〈市長〉本市を取り巻く社会経済情勢の変化への対応や、リアルタイムでの市民ニーズを反映した市政運営、さらには極めて厳しい財政状況を踏まえた財政の健全化など、本市に課せられた行財政運営における課題解決のための取り組みです。

本市の市政運営の基本的戦略を示す「まちづくり戦略計画」、効果的・効率的な行政体制の整備を目指す「行政改革推進計画」、そして、財政の健全化を実現するための「財政健全化計画」の3つの計画を策定するために、本年度「三位一体での見直し」を推進しています。

〈記者〉なぜ三位一体の見直しに取り組もうと思われたのですか?

〈市長〉まずは本市の危機的な財政状況があります。これまでも財政健全化に向けた課題としてはこれまでもあげられていましたが、本質的な部分については先送りされてきました。最小のコストで最大の効果、官民の役割分担、市民の視点でゼロベースの見直し、といった観点から行政サービスや体制の見直しを行う必要があります。また国の三位一体の改革も急ピッチで進み、自治体には好むと好まざるとに関わらず自立が求められます。これまでの様な横尻あわせの改革では時代の急激な変化に対応できません。財政を立て直し、行政をスリム化し、魅力ある都市づくりを進めるため、新たな時代に対応できる受け皿の整備が求められています。こうした改革の成功の鍵は、市民の理解・協力と職員の意識改革・全庁あげての取り組みだと考えます。

それによって生み出された人員や財源を新たな熊本づくりに重点的に投資をしなければなりません。

〈記者〉実際取り組んでみて感じていること、苦労していることなどありましたら。

〈市長〉行革や財政健全化は総論では誰も反対する人はいません。ただ各論になると賛否色んな意見が飛び交います。さくらカードや市立産院についても見直し反対の署名運動や陳情が相次いでいます。さくらカードは今後の高齢化が進む中で事業を継続していくための自己負担のあり方を検討しているところですし、産院についても措置分娩等の行政が果たすべき役割まで無くしてしまおうというものではありませんが民間での代替の可能性を検討しています。改めて丁寧な説明が必要だと感じています。また行政改革とは削ったり減らしたりするだけではありません。限られた人員・財源を最大限活用し行政サービスの向上につなげることも行政改革です。熊本市の財政状況を考えた場合に都市間競争で言えばすでに周回遅れです。少しでも早くその遅れを挽回し本格的な競争に参入しなければなりません。そういった危機感を抱きながらも前向きに取り組みたいと考えています。

〈記者〉今後の取り組みのスケジュールはどのようになっているのでしょうか。

〈市長〉10月中旬に計画の中間報告を行い、年度内には最終的な計画を策定する予定です。計画では出来る限り数値目標やスケジュールを提示することで、計画策定後は先送りすることなく速やかに実行に移します。また計画策定を待つことなく出来るものについては着実に取り組んでいきます。尚、中間報告から計画策定までの間、パブリックコメント等により多くの市民からご意見をいただきたいと考えています。

〈記者〉市民の皆さんにお伝えしたいことがあれば、お願いします。

〈市長〉今受けている行政サービスに関して、一部自己負担をお願いしたり、削減することも出てくると思いますが、受益と負担との関係を明らかにしながら、何故見直しが必要なのかといった説明は出来るだけ丁寧に行いたいと考えています。行財政改革はあくまでも手段です。目的は皆さんと一緒に新しい熊本づくり、住みやすく暮らしやすい街づくりを実現していくことです。（行革や財政健全化をあまりやり過ぎると人気が下がる?）と囁される方もいらっしゃいますが、人気取りの政治をするつもりはありませんし、新しい熊本づくりのために前向きに取り組んでいきます。ご協力をよろしくお願いします。